

四阿山と草津白根山に登山して

2017年7月2～3日

我部山民樹

- ・四阿山（あずまやさん） 標高 2354m（群馬・長野）
- ・草津白根山（くさつしらねさん） 標高 2171m（群馬）

7月2日

新宿駅 7:15 発のバスにて白根火山ロープウェイ駅に向かう

男性4名と女性8名の計12名。男女比は平均的。70歳の私が男性陣の長老か？女性陣には75歳に近いと見受けられる人がいる。こちらから年齢は聞けないが、このくらいの年齢になると、自分から、話す人も多いが。

‘まいたび’の添乗員 K リーダーと O さんより、次の説明を受ける。

‘今回登山する山は浅間山の仲間である。浅間というのは火山の古語で有り、富士山の浅間神社もそこから来ている。’ と。

11:05 に山頂駅（標高 2027m）を出発。イワカガミ、ゴゼンタチバナ、ハクサンチドリ、マイズルソウ、コマクサ他の高山植物を楽しみながら、頂上に向かう。



コマクサは火山のガレ場にしか咲かない珍しい花だ。コマクサを見るのは早池峰山以来だ。早池峰山のコマクサは広く群生していて、その素晴らしなものだ。

頂上（2171m）は硫化水素ガスのために立ち入り禁止になっているので、本白根展望台（2150m）にて登頂の証拠写真を撮影。眺望は良い。



コマクサ



本白根山遊歩道

百名山を提唱した作家で登山家の深田久弥が、‘まるでローマのコロシアムのようだ。’と称した火口を迂回し、鏡池に向かう。火口に小屋が見える。恐らく、硫化水素ガスの分析計とかを収納しているのだろう。鏡池で景色を堪能しながらしばらく休憩する。高山植物や眺望を楽しみながら下山する。

下山途中で湯壺（火口湖）を堪能する。



湯壺

阿蘇山の河口よりは薄い水色だ。硫黄が多いせいだろう。噴火の危険性が有るとの理由で、4年前に立ち入り禁止となったが、この6月1日に等級が引き下げられ、立ち入りが解禁されたばかりだ。 ラッキーだ。

宿泊地のあずまや高原ホテルにバスで向かう。17時頃に到着。露天風呂に入る。風呂より、遠くの山々を眺めながら、身体を休める。

16:15分より食事。本日の天気予報は曇りだったが、実際は晴れたことに感謝しながら、明日の天候が話題となる。山の天気は急変し、予報は宛てにならないが、添乗員がスマホにてチェック。天気予報は3時位まで雨だが、その後は曇りと分かる。合羽を着用して歩行するのは困難なので、雨が降らないことを喜びながら、誰もが晴れに変わることを期待している。

山好きと一目で分かる男性が話かけて来る。‘若い時から登山を続けている。今年1年間の休暇願を出して、毎週のように登山している。’と。後で、押上在住の64歳のYさんと分かる。64歳で1年間も休暇を貰える会社や団体が有るのだろうか？と驚く。以前聞いた‘どうしても登りたくて、上司に休暇願と退職願を出したら、退職願を取られた。’との話を思い出す。山好きは働き場所より、山が大事なのだ。もう一人の男性が‘山が好きなので、昨年61歳で退職、そして登山に専念している。’と。岡崎から夜行バスで来たSさんだ。男性で最も若い方だ。もう一人の男性はあまりしゃべらない。帰りのバスの中での話だが、東京都在住のSさんと分った。その時、名前が珍しいと言われたので、‘四国の善通寺市出身。実家は空海の生誕地の善通寺の近く。この名前はそこの出身者だけで、400名程。’と説明



話を戻す。50歳代の添乗員のKさんが、‘昨年、北アルプスを縦走したいので、退職した。その後、毎日新聞旅行社の添乗員をしている。’と。このように添乗員は山好きが昂じてなった人が多い。中にはサラリーマンが務まらなくて

なった人もいるような話を聞いたこともあるが。

部屋に戻り、酒盛りが続く。テレビで都議選の開票結果を見ながら、寸評する。誰もが自民党が勝手に転んだだけと。そして登山やその他、雑談で盛り上がる。ここで、お互いの名前、出身、登山歴が分かる。誰も聞かなかったので、私の名前は告げず。

7月3日6時出発予定

4時頃に目覚める。早朝の露天風呂を楽しむ。折角の温泉だ。予報と異なり雨が止まない。心配だ。



フロントに四阿山の名前の由来を聞く。‘ホテルの支配人にも由来を聞いたことが有る。日本庭園の四阿（あずまや）に山の形が似ているので、この名前になったと。ネットにもそのような説明が出ているので、本当です。’と説明を受ける。一応、納得し、部屋に戻ったが、時系列がおかしいので、もう一度フロントに確認に行く。‘日本庭園ができる前から山は有った。途中で山の名前が変わったのか？’と。

しばらくして、‘そのようにおっしゃるお客さんもいます。遠くから見た山に形が四阿に似ていることからこの名がついたともネットに書いてもいます。昔から名前は変わっていないと思います。’と。更に‘婦恋側からは吾妻山（あがつまさん）と呼ばれている。里の宮（祠）や奥社が1500年位前からあると聞いている。’と。神社の名前を聞き忘れたが、山頂で奥社の名前は山家神社と判る。



出発間際に雨が止む。雨具を脱いで 6 時頃に出発。牧場の牛を眺めながら、横を抜ける。あやめがきれいだ。標高 2000m くらいで、蓮華つつじの群生を楽しむ。満開である。赤城山の蓮華つつじの群生ほどではないが。ハクサンチドリの群生が見事だ。蕨も最盛期のような。高山植物は胆嚢できるが、周囲は雲に覆われ、眺望は期待できない。



四阿山山頂にて

頂上に祠が有る奥社の山家神社だ。無事に帰れることと家内安全を祈願する。曇が多い。強風なので、雲が時々風に流され、遠くの山々が垣間見える。絶景だ。

下山途中で、私の後ろにいた 62 歳の S さんが滑った。大したことは無いと思ったので、先を進む。次の休憩場所で待っていた S さんが‘手が笹に絡まり、体だけがすべって、手首を痛めた。’と。直ぐ後に来た女性が、’私が応急手当した。‘と。そこで初めて中国の方と分かる。しかし、私の前にいた女性が、’看護師です。シップし、箸とかを支えにして、三角巾で手当てをし直します。今日中に病院に行なくてもよいでしょう。’と。この事故で全員が急に親近感がわき、おしゃべりを始める。私が‘怪我人に出会ったのは始めて。’という、看護師が‘木道で滑った人が、膝がぐちゃぐちゃになって、ヘリコプターで運んだことが有ります。また、下山後に風呂に入ったとき、40 代の女性登山客が、風呂から出ようとして、滑って転んで、左脚の膝から先が外れていました。急いでくっつけて、包帯で止めました。救急車で青森の病院に入院させました。すっかり治って、登山を再開していると後で聞きました。初期の迅速な手当てが良かったか

らと病院から言われました。’と。さらに‘筋肉疲労により脚の筋力が無くなって滑ったのだろうし、骨を支える筋力が無くなれば、骨も外れてしまうのでしよう。職業が呼び寄せるのか、自分は事故に良く遭遇します。’と。

後で、中国の方ではなく台湾の台中出身者と分かる。‘20年前にご主人と一緒に日本に来ている。日本の山は四季もあり、綺麗で本当に素晴らしい。(台湾の亜熱帯の山とは異なる?) ご主人と一緒に二つの登山クラブに所属し、登山を楽しんでいる。ここ2年で百名山を67座登頂しました。早く百名山を制覇するためにツアーにも参加しています。台湾に帰るかどうかはまだ決めていない。’と。さらに‘25歳で台湾を出て、他の国にもいたことが有ります。その後、日本に来ました。’と。25+20+アルファ歳。60歳前後か?

13時頃にホテルに到着。温泉に入り、ビールを楽しんでから14:10にバスにて出発。車中で東京のSさんが私に‘66歳から登山開始して、不安が無かったか?’とか聞いて来たので、ひとくさり説明。近くでこの会話を聞いていた女性が私に‘70歳ですか? 私は74歳。この前はネパールの山に登りました。新小岩在住’と。車中や登山中、ずっとおしゃべりしていた人だ。さらに‘あの人は75歳。’と指をさす。指をさされた75歳の方は添乗員とも顔なじみの常連客で、添乗員がWさんと呼んでいた人だ。脚が衰えていて、一人だけ遅れるし、疲れてルートを省くが、あまり気にしないようだ。もう一人の添乗員が付きっ切りだ。

添乗員が登山ツアーの資料を配る。Wさんが、‘先ほど添乗員に白山ツアーに参加しても大丈夫かと聞いたら、大丈夫と言ってくれたので、行くつもりです。’

‘と大声で皆に話す。その添乗員が、慌てている。更に周囲の人に’一緒に行かないか’と誘う。二人の女性は’既に登山しました。今年は開山1300年祭で盛大です。今年がいいですよ’と言って私に振ってくる。日本3大霊山の一つだ。富士山と雄山(立山連峰)は登山済みなので残る白山はいずれ登山予定だ。スイッチが入る。市民大学講座は補講に変更することにして、帰着後に申し込む。7月21日出発だ。

以上